

	研修部 部会記録				
日時	令和4年5月11日 15:30～16:45				
部会名	研修部 授業実践部会				
参加数	39名 (集合参加者 16名) (ハイブリッド参加 23名)	司会	森野 淳	記録	山田 香里
研修内容	【歌唱研修】 コロナ禍における合唱指導の工夫 講師 横浜市立西寺尾第二小学校 校長 宮崎 里子先生 場所 横浜市立桜岡小学校				
	○コロナ禍の下の歌唱の現況 「大きな声を出さないように」という意識が子どもたちの中にあり、体の使い方がうまくできなくなっている。今月の歌を歌うときに短い時間で発声練習を楽しく行う方法もある。例：きらきら星での発声 ♪＝80くらいで「シー」と息のみの音で行う。その後にハミングを行う。半音ずつあげていき、口をとじて行う。また、口を開けるオープンハミングはとても効果的である。2通り教えてあげるのがよい。マスクで下顎が固定されてしまうので、マスクの下部分を親指を入れて空間をあける。マスク生活により顎の可動域が狭まっていることを開放できるようにする。また、いろいろな方向を向かせて行うのも有効である。自身の体を使って歌うという前提で体を知るためにつま先を触り、そのあとお膝まで手がのび、頭の上まであげる。「こんなに大きい楽器なかなかないよね。肩を回して横に回して、こんなにたくさんの空間もっているよ。」と声をかけたり、手を前にも回して声の流れを確認したりする。空間の使い方を示唆する。唇を震わせながらハミングをするのもよい。(唇の下を人差し指で持ち上げると唇を震わせやすい。) ○CO2 計測による 3 密回避支援サービスの導入 音楽室内の二酸化炭素を計測し、適宜換気を行いながら授業を行っているということを保護者にわかっていただく材料になる。 ○「ハロー・シャイニングブルー」の指導法 鼻腔の響きを大切にする。教科書の教材を楽に歌うために、上顎に響くようにする。響かせる場所は好みだが、目、鼻の上など。ハミングをしながら唇を震わせる。スキャット（ロ、リといった単母音）、母音唱（アイウエオ）。2つに共通していえるのは息の流れをつくること。伴奏なしで行うと自分たちの声に耳がいく。学習中は無伴奏のところを意図的につくる。グループをつくりフレーズを回して歌うのもよい。なるべく日頃から少人数のグループで歌うことに慣れさせ、その都度評価をしていくと歌唱の評価がとりやすくなる。また、互いの声を合わせることに着目させるのに有効なのは、ソプラノとアルトで背中に向かい合わせで歌うことである。音の重なりが感じやすくなる。曲の山は「ロ」や母音唱で行うと音の重なりが感じられやすい。ハーモニーの時は大きな声はいらないよ、と伝える。ハミングでやってみるのも有効的である。様々な方法で行きつ戻りつしながら行くとよい。アルトパートの音色は、ユニゾンがそろえるとよい。ユニゾンがそろえられるように普段から着目させておく。音がとれない子も、その1音さえ合っていればよいととらえる。1オクターブ下でも音程が合っていればよいと考える。楽しく、居場所があり、そんな音楽の授業であるとよい。指導の「処方箋」をたくさんもち、児童とともに共有していく。子どもが歌う、演奏するということに感謝していく。				